

先進・優良事例の選定について

- 1) 経済・暮らしの指標では、人口指標を中心に財政、社会保障、一体改革といった項目を取り込み総合的な指標化を行うと共に、重複感がないとはいえないものの歳出のワイズスペンディング、一体改革への取り組みに向けた民間委託などについても総合的に指標化しており、都市の総合評価に向けた一定のスケールが構成できたことをひとまず評価したい。
- 2) このようなスケールをつかってひとまず算定した都市ランキングについていえば(都市計画者として地域のまちづくりなどに現場で関わっている経験を踏まえると)都市の総合評価と個人的な評価は一致するところが多く、直感に合致するものと感じる。※たとえば流山であれば、首都圏近郊自治体の中で競争的環境におかれている自治体の中では、子育て支援や財政改革に最も積極的な自治体のひとつとあっていいだろう。大阪吹田市では、高齢化するオールドニュータウンのマネジメントが注目されている、松山市の財政を意識した都市経営戦略と都市リノベ事業などを通じたコンパクトシティ政策、黒部市の北陸新幹線駅設置に伴う雇用促進策といったストック効果を生み出す都市戦略の推進など、各々の都市の実践活動と一致しているのではないか(無論、その逆もあるかもしれないため、さらなる精査は必要)。
- 3) 但し、提案されているスケールでは、民間調査の自治体ランキングや各自治体の表彰制度の取り上げ方も含まれており、既存の評価尺度の内容も反映されることも特徴。こうした外部指標の取り込みは評価の確度を高める効果はあろうが、アピールのうまい自治体ではなく、あくまで客観的な評価指標によるワイズスペンディング施策の客観評価を定着化させていくことが求められよう。
- 4) たとえば今回のランキングで上位となった愛知県刈谷市は、中部圏の中では産業立地の特性上、発展的段階にあり、都市政策をうまくまわしている自治体といえるし、岡崎市も中心市街地活性化に向けた公民連携型の地域づくりが盛んであり、表彰経験の少ない自治体も今回のスケールによってしっかり抽出できている点は興味深い。本指標によって抽出されている都市を地域ごとに類型化した上で、客観指標によってワイズスペンディングに向けた行動を実践している自治体で立体的な討議を展開することで、現場重視型の経済財政改革の推進に向けた動きを加速させると共に、現場の討議を踏まえた指標見直しを図っていきたい。